

知財業務の革命：生成AIが導く2026年へのロードマップ

生成AI成熟度モデル（5つの進化段階）

レベル5： AIファーストの知財経営

知財と事業戦略が融合し、AIが将来の技術トレンドやR&Dを提言します。



レベル3～4： プロセス統合と 「自律型エージェント」

AIがワークフローに組み込まれ、目標達成のために自動的に計画・実行を行います。



レベル1～2： 個人の実験から 「副操縦士」へ

翻訳や要約などの特定タスクにおいて、人間を主導としたAI支援が始まります。



セキュリティ対策：
エンタープライズ
契約による
機密情報の遮断

拒絶理由通知対応：
エージェントによる
論点抽出と反講案の
自動生成

特許ドラフティング：
作成時間を20～40%短縮

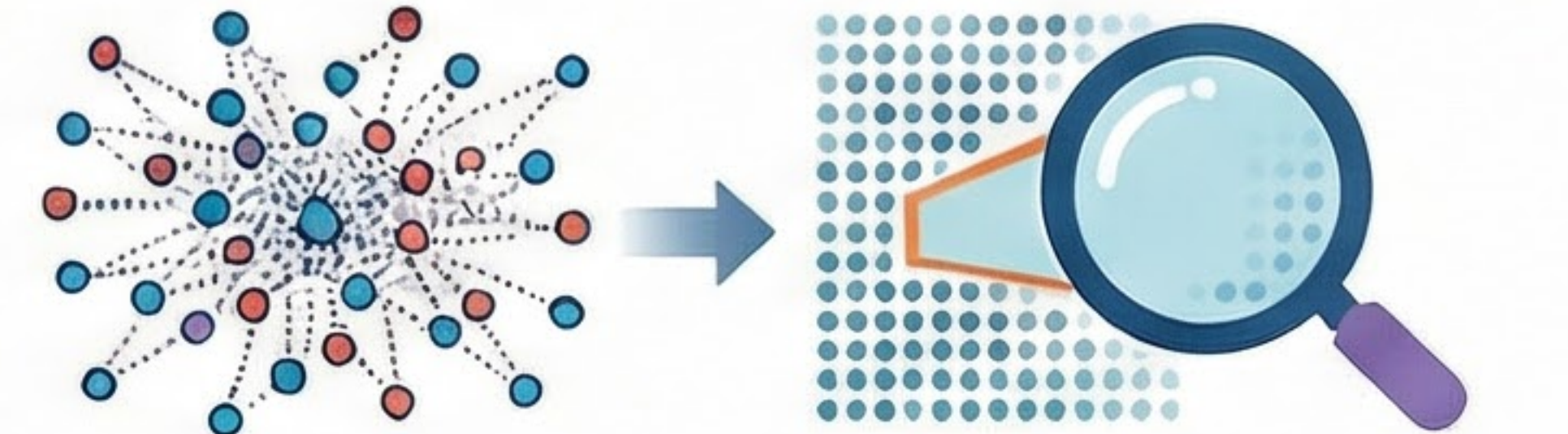
変革をもたらす3つの重点領域

「プル型」から「プッシュ型」の発明発掘



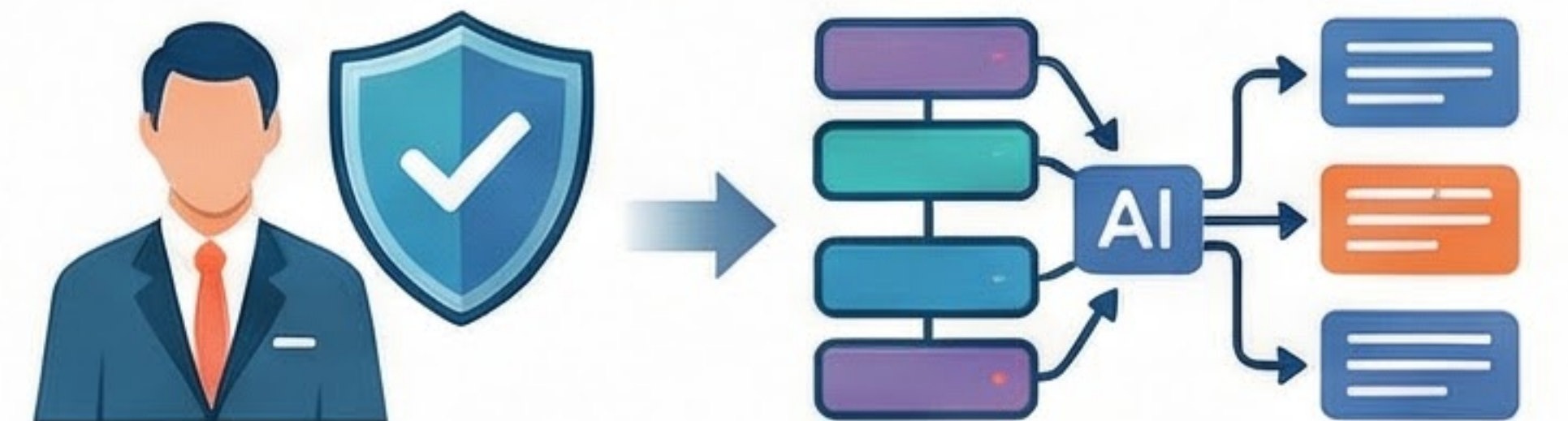
AIがR&Dの議論を監視し、発明の種を能動的に見つけ出すプロセスへ転換。

意味解析による「空白地帯」の瞬時特定



膨大な特許データから、技術的盲点（ホワイトスペース）をAIが自動で可視化。

「Human-in-the-Loop」の徹底



法的責任と戦略的判断は人間が担い、AIの出力を監督する体制を構築。